

IV 令和7年度の主な取組について

取組事例紹介 しるまもる 知守



スマイルエイジング薬局事業

市民の健康づくりを身近な地域でサポートできる健康拠点として、薬局の申請により市が「スマイルエイジング薬局」に認定しています。「スマイルエイジング薬局」では、くすり及び健康に関する専門的な相談及び支援が受けられるだけでなく、健康に役立つ情報の発信や他機関と連携して市民のみなさんの健康をサポートします。

令和7年度末現在、10 薬局が認定されています。



スマイルエイジング強化月間応援サポーター

市民の健康に向けた行動変容を促すために、健康に関する様々な取組を市民や関係団体と協創して集中的に実施する月間として、11月を「スマイルエイジング強化月間」としています。

令和7年度は、142か所のスマイルエイジング強化月間応援サポーターの協力を得て、市民の健康づくりのきっかけとなる様々な取組を行いました。

＊強化月間応援サポーターとは、市民が健康づくりを実践するきっかけとなる機会や場を提供できる企業、店舗、医療機関、団体等に、月間中、様々な取組を行っていただくものです。



スマイルエイジング健康講座シリーズ・外部講師シリーズ

市民が健康に対する理解と関心を深め、健康づくりを推進することでスマイルエイジングを実践するために健康教育を随時実施しています。外部講師シリーズは、市内に在住・在勤の保健医療専門職（市職員除く）で外部講師の登録をされた方が健康教育を実施します。

令和7年度は、健康講座シリーズは82回開催し、延べ2,346名が受講、外部講師シリーズは13回開催し、延べ158名が受講されました。



健康増進計画推進事業（健康フェスタ）

SOS かたつむりで行こう会（健康増進計画推進委員会）、SOS 健康・情報ステーション、健康づくり推進協議会の活動と協働し、年1回健康について、楽しく学び体験できるイベントを開催しています。

令和7年度は、厚狭地区複合施設で第16回 SOS 健康フェスタを開催しました。「ひと まち スマイル 健幸つかんで つながりを」をテーマに、ステージイベントや健康に関する講演会やブース等を設置し、子どもから高齢者まで約2,000名が来場されました。

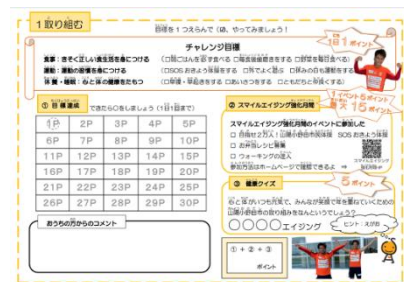


健康マイレージ事業

楽しみながら健康づくりに取り組めるものの一つとして、「やまぐち健康マイレージ事業」「やまぐち健幸アプリ事業」の取組をすすめています。

参加者はチャレンジシートまたは健幸アプリで、健康づくりに向けた目標を実践したり、健診を受けたり、健康イベントに参加したりすることで、ポイントを貯めていきます。規定されたポイントが貯まったら、県内のお店で割引サービスを受けられる特典や抽選で健康グッズや特産品などの景品をプレゼントするなどして、市民の健康づくりへのきっかけづくりと継続を支援しています。

令和7年度は、「やまぐち健康マイレージ」に275名が参加され、「やまぐち健幸アプリ」に3,080名が登録されました。



マタニティひろば（産前産後サポート事業）

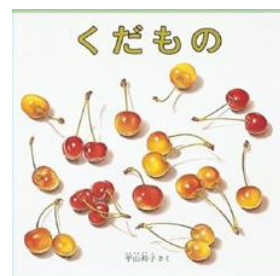
妊娠・出産や子育てに関する悩み等について保健師等の専門家による相談支援事業を行うとともに、妊産婦同士の交流を図るための教室を開催しています。令和7年度は、延べ186名の方が参加されました。



マタニティ・ブックスタート事業

マタニティ・ブックスタートとは、赤ちゃんとお母さん、お父さんが肌のぬくもりを感じながら「絵本を介して」ことばと心を通わせるひと時を応援する珍しい取り組みで、平成15年に全国に先駆けて開始したものです。市内在住の妊婦さんに絵本を1冊（毎年度2冊ずつ絵本を用意し、うち1冊を選んでもらう）と絵本作家 あべ弘士さん書き下ろしのイラスト入りオリジナルバッグをセットで差し上げています。

令和7年度は、300人を超える妊婦さんにセットを差し上げ、絵本への興味を喚起する一助になっています。



女性のがん検診普及啓発事業

がん征圧月間（9月）、ピンクリボン月間（10月）に合わせて、正しい知識を広め、早期受診を勧めるため、女性のがん（子宮・乳）検診の普及啓発を行っています。

令和7年度も、ショッピングモール等での啓発、女性限定託児付きの集団健診を実施しました。託児付きの集団健診は延べ57名が検診を受診しました。



成人健康診査事業

健康診査を受ける機会のない人を対象に、健康診査、各種がん検診、結核検診を実施しています。

令和7年度は、広域での受診体制の構築、受診歴のある方への個別通知、電子申請での申込など受診率の向上を目指しました。



介護予防把握事業・介護予防普及啓発事業

65歳以上の方を対象に認知症予防に早めに取り組んでいただけるように「あたまの健康チェック」を実施し、その後、希望者に認知症予防のための手法を身に付けていただくために「あたまの若返り教室」を実施しています。

令和7年度は、あたまの健康チェックを20会場で実施し、231人受検、あたまの若返り教室を3会場で実施、延べ166人が参加されました。



高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業

KDB システム（国保データベースシステム）を活用して健康課題を抽出し、住民運営通いの場等で、運動、口腔、栄養、社会参加などその地域に合った内容で、フレイル予防などの健康教育や健康相談等の事業を実施します。

令和7年度は、市内全域で81回の健康教育を実施しました。

山口東京理科大学との協創・データ活用によるスマートシティ推進事業

スマートウォッチ等から収集した健康データを活用して、市民への健康相談・指導に役立てるとともに、山口東京理科大学と連携し、データの分析・活用に取り組む事業です。これにより、生活習慣の改善や健康意識の高まりを目指しています。

令和7年度は、スマイルエイジング薬局や健康事業に取り組むNPO、市の保健事業と連携することで、より多くの参加者の健康相談を実施し、生活習慣の改善を図りました。今後は分析したデータの活用にも取り組みます。



取組事例紹介 食事



学校給食実施事業

生きた教材としての魅力ある献立を作成し提供しています。

令和7年度も例年同様、地場産給食週間を3回、やまぐち郷土料理の日を1回実施、毎月19日を食育の日とし、食育だより等を発行し、児童・生徒・保護者に向けて食育情報の発信をしました。

また、学校給食センター施設見学会を10回実施し、136名の小学生が見学されました。小中学生の保護者対象の施設見学試食会も開催し、11名の保護者が参加されました。



給食センター
ホームページ



@SANYO_ONODA.KYUSHOKU

Instagram

手作り弁当及びレシピコンテスト（スマイルエイジング強化月間）

市民の食に関する意識の向上と健康に向けた行動変容を促すため、子どもの頃から食に関心を持ち、調理体験をする機会を増やすこと、また、市民一人ひとりが食に関心をもつ機会を増やすことを目的に、小・中・高・大学生を対象とした手作り弁当コンテスト及び一般の方を対象としたレシピコンテストを実施しました。

令和7年度は、手作り弁当コンテストの小学生部門113点、中学生部門590点、高校生・大学生部門32点の応募があり、1,353人の市民による投票を行い最優秀賞及び優秀賞を決定しました。



離乳食ひろば

育児のポイントや離乳食のすすめ方等のお話しや実際の離乳食を見てもらうことで、安心して育児ができるようサポートを行うとともに、参加者同士の交流を図ることで、孤立化を防ぐことを目的とする教室を開催しています。

令和7年度は、延べ47組の方が参加されました。



歯っぴーひろば

離乳食の完了時期から幼児食への移行に対する不安や悩みを解消できるよう、食事や虫歯予防等についてのお話しをすることで、孤立化を防ぎ、安心して育児ができるようサポートを行うことを目的とする教室を開催しています。

令和7年度は、延べ28組の方が参加されました。

ミニしょくいくはかせ教室

幼少期の頃から食体験を増やし、食の知識や料理技術の習得、食事のマナーなどを総合的に学び、食に関心をもつこと。また、その保護者が家庭での食育を実践することを目的とした食育教室をスマイルキッズ内のキッズキッチンで開催しています。

令和7年度は、20回開催し、110名の幼児（保護者115名見学）が参加されました。



親子食育料理教室

親子で食について学び、調理実習をとおして食育の推進を図るとともに、学校給食への理解を深めることを目的に、市内小中学生とその保護者を対象に実施しています。

令和7年度は「親子で楽しくかみかみクッキング」「親子で楽しくみそづくりとかんたんクッキング」「おいしさってなんだろう？親子で楽しく味覚体験！」のテーマで4回実施し、68名の親子が参加されました。



食生活改善推進員育成支援

食生活改善推進員（ヘルスマイト）は、食を通じた地域の健康づくりを推進するボランティア団体です。地域に根ざした食育を推進するため、食生活改善推進員の育成支援を行っています。

令和7年度は、食生活改善推進員研修会を7回開催し、延べ200名のが受講されました。

取組事例紹介 運動



ウォーキングの推進

スマイルエイジングの「運動」のなかでも「歩くこと」に特化して、ウォーキング講座の開催や市ホームページ等を活用してウォーキングコースの紹介等を行っています。

令和7年度は、ウォーキングイベントを3回行いました。またウォーキングマイスター養成講座を実施し、ウォーキングの知識や技術を身につけ、地域に発信できる人材を養成し、14名がウォーキングマイスターになりました。



社会教育推進事業

地域づくりに関わることができる人材の発掘・育成を行っていくため、地域交流センターにおける各種主催事業の学びを通じた「人づくり」を充実させていきます。

令和7年度は、各地域交流センターにおいて、ウォーキングをしながら地域を探訪する「健康ウォーク」や市内の文化財を歩きながらめぐる「ふるさと探訪」、その他各地域で多彩なウォーキングイベント・教室等の事業を実施し、延235人が参加しました。ウォーキングイベントを通じて、参加者のふるさとを愛する心の育成につながっています。

パラサイクリング支援の輪拡大事業

タンDEM自転車の体験やパラサイクリング日本ナショナルチームとの交流を通じて、パラサイクリングの魅力を感じ、パラサイクリング（障がい者スポーツ）を応援する機運を高める活動をしています。

令和7年度は、3校でパラサイクリング日本代表選手等が交流事業を行い、監督によるパラサイクリングの紹介やタンDEM自転車の試乗体験を実施しました。



スポーツ教室

初心者の方でも気軽に、楽しくスポーツを始められるようにスポーツ教室を実施しています。

令和7年度は、バドミントン教室に31名、テニス教室に17名が参加されました。

健康運動事業（こくほヘルスサポートジム）

30歳以上の国民健康保険被保険者の方を対象に、市内のフィットネスクラブにおいて、インストラクターの指導のもと、健康運動事業を開催しています。

令和7年度は、延べ99名の方が参加されました。

スマイルエイジングパーク事業

都市公園等で、ウォーキングコースの園路改修や健康遊具の設置をすすめ、市民の運動習慣を推進するための環境整備を行っています。令和4年度からは糸根公園と青年の家が立地する区域をスマイルエイジングパークと称して一体的に整備を進めています。

健康遊具は、須恵健康公園、江汐公園グリーン広場、厚狭川河畔寝太郎公園のゆめ広場、東下津河川公園に設置しており、HP等で紹介しています。



市民体操 SOS おきよう体操チャレンジ（スマイルエイジング強化月間）

運動に関する意識の向上と健康に向けた行動変容を促すため、山陽小野田市民体操「SOS おきよう体操」を推進しています。

令和7年度は、その実践の機会の一つとして、11月のスマイルエイジング強化月間に「チャレンジ『たった5分！SOS おきよう体操を習慣にしよう！』」を実施し2,023名が実施されました。



取組事例紹介 交流



ガラス文化推進事業

きららガラス未来館のガラス作家による体験や講座を開催し、本市のガラス文化を広く発信しています。



かるたによるまちづくり推進事業

山陽小野田かるた協会会員や2人のかるたクイーンが学校に出向き、小中学生に競技かるたを教えています。

令和7年度は、全市内小中学校の児童生徒885名を対象に開催しました。また、市内幼・保育園児を対象としたかるた教室も開催し、187名が参加しました。



スマイルプランナー運営事業（スマイルプランナー制度）

「スマイルシティ山陽小野田」に共感する人々が「笑顔」をキーワードにつながる制度で、この制度に登録している人を「スマイルプランナー」と呼びます。まちづくりに参画したいという人の想いを、積極的に社会参加につなぎ活躍していただくことが、その人自身の健康、さらに、スマイルエイジングに繋がる取組として推進しています。令和7年度末時点で、380個人、81団体が登録され、活躍されています。



ハロウィンイベント事業

市のイメージカラー「オレンジ」との親和性が高く、若者に人気のハロウィンに着目し、10月に参加型イベント「スマイル・ハロウィンパーティー」を開催し、市の魅力を大々的にPRするとともに、本市に対する誇りや愛着を持っていただくきっかけとします。また、10月の1か月間、「スマイル・オレンジフェア」を実施し、参加事業所によるサービス提供や関連イベント等の連携を図ることで、市内全域における交流人口・関係人口を増やしていきます。

令和7年度は、「スマイル・ハロウィンパーティー」の開催に加え、オレンジ月間を盛り上げるため、周遊型イベント「さんハロへGO！トレジャースタンプラリー」を実施し、市内への周遊促進を図りました。



商業振興諸行事支援事業

商業振興となる小野田駅前ふれあい祭り、寝太郎まつり、厚狭花火大会、おのだ七夕まつり、厚狭秋まつり、お祝い夢花火、おのだクリスマス花火の7事業に対する補助を行い、人や地域とのつながりを持つことができるよう支援しています。

令和7年度は、寝太郎まつり、厚狭花火大会、おのだ七夕まつり、厚狭秋まつり、お祝い夢花火、おのだクリスマス花火、小野田駅前ふれあい祭りの7事業が開催されました。



地域振興諸行事支援事業

地域振興と交流促進を目的にイベントに関わる経費の一部補助を行い、人や地域とのつながりを持つことができるよう支援しています。

令和7年度は、若山公園さくらまつり、竜王山公園さくらまつり、江汐公園つつじまつり、復活！住吉まつり、寝太郎の里ほたる祭り、山陽小野田 smile ジュニア☆フェスタ、やけの美タフェスタ、埴生きおんふるさと祭り、I LOVE SANYO-ONODA、山陽小野田ふるさと凧あげフェスティバルが開催されました。



多文化共生推進事業

本市在住の外国人との交流等を通じて、国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的な違いを認め合い、対等な関係を築き、地域社会の構成員として共に生活していくための環境整備の一環として学習支援、交流の場を提供しています。

令和7年度は、外国人住民と日本人住民の交流事業として、「にほんごで話そう in ASA」を12回開催し、延べ150人（外国人56人 日本人94人）が参加されました。



キッズファーム事業

スマイルキッズに小規模の畑を整備し、地域住民の指導のもとに未就学児と保護者が野菜の収穫体験等を行います。また、収穫した野菜を食育講座の食材に活用しています。

令和7年度は、年2回実施し、2日間で延べ20人が参加しました。



ファミリーサポートセンター事業

子育ての援助を受けたい方と援助できる方による、地域の相互援助組織の運営を行います。

令和7年度（R8.2月末現在）は、依頼会員271人、提供会員44人、両方会員53人が登録され、209件の利用がありました。

地域介護予防活動支援事業

住民自身の積極的な活動による、住民運営通いの場の設置支援を行うことで、「いきいき百歳体操」「脳いきいきクラブ」「健康遊具」など介護予防を中心とした交流の場を増やしています。令和8年2月末時点で、市内92か所の通いの場が設置され、市民が身近な地域で健康づくりに取り組みました。



認知症カフェ事業

認知症の人やその家族の居場所づくり、地域住民や専門職等との交流、認知症についての相談や情報提供、認知症の正しい理解への普及啓発などを目的とした「認知症カフェ」の運営を委託して行います。

令和7年度は、4か所で「認知症カフェ」の運営を委託しています。認知症地域支援推進員（地域包括支援センター職員）が毎回参加し、相談や情報提供を行っています。

